

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400160	事業の開始年月日	平成20年9月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社 アイシマ		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ		
所在地	(246-0022) 横浜市瀬谷区三ツ境159-10		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	15名
		宿泊定員	9名
		定員計	25名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1493400160&SVCD=730&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

防災・災害時対策に力を入れています。災害時対策の個別支援として、自宅の家具の移動や非常用持ち出し袋の準備の支援おこなっています。瀬谷防災ネットワーク減災共助の会の活動も行っており、避難所体験など行なっています。消防訓練は近隣のレストランやサービス付高齢者住宅と合同の訓練も行っています。介護職員全員が普通救命講習を受講済みです。また日常生活に変化を出すため、みかん狩り、外食、畑での野菜の収穫、梅干し作り、利用者様向けの講習会などを行なっています。ボランティアさんが来所する機会も多くあります。職員の定着率がよく、いつも同じ顔があるのも自慢の一つです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成26年3月13日	評価機関 評価決定日	平成26年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

相鉄線三ツ境駅より徒歩10分、低層の住宅街の一角にあります。バス通りには、同法人が経営するレストランがあり、利用者からも好評を得ています。

<優れている点>

職員の対応が明るく、また寄り添う時間を大事にする趣旨から、テレビはなるべくつけないようにし、利用者の会話や笑顔を引き出しています。防災訓練に力を入れ、所管の消防署や近隣の住民参加もあり、自治会の協力が得られています。食事前には楽器演奏で歌(唱歌等)を歌い、スムーズな嚥下を促すようにしています。創作活動の作品は、新聞のカラー部分を使ったちぎり絵を制作したり、牛乳パックや和紙を使った作品等、身近な素材を使い利用者の活動意欲を引き出しています。

<工夫点>

身体を動かす参加活動では、ラジオ体操、浜ちゃん体操、民謡体操など、バリエーションを揃え、楽しそうに参加しています。ピアノに合わせて歌える歌集をオリジナルで約200曲(三冊)用意しており、利用者のその場のリクエストに応える形で即興演奏で歌を楽しんでいます。家族に呼びかけて「家族親睦会」を趣向を凝らして職員の全員参加で実施しています。職員の研修では、「立候補制」として、自分が受講したい研修に自ら参加の意思を示し、モチベーション向上を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリーブ独自の理念を挙げている 理念は目に付くところに貼り実践できるようにしている 法人の理念にも地域密着主義があり、地域との連携を強化している	理念を玄関に掲示しています。職員の会議進行でも、理念の趣旨に沿った判断であるかも確認し、反映や実践に繋がっています。運営推進会議や、家族の会（オリーブ親睦会）の議事進行でも理念を示し、理解してもらうようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している、地域行事や子供会行事等参加し交流している オリーブがある地域は防災に非常に力を入れているため、地域防災拠点の講習会や避難訓練に参加し、災害時に協力し合えるような関係作りがある	地域の川の美化活動や三ツ境小学校の運動会に参加しています。また、地域防災拠点である三ツ境小学校で、町づくり委員会が開催する防災講習にも参加し、自治会や老人会との共助の体制が打ち出されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や家庭防災委員向けに、消防署にて高齢者の理解講座を開催し、73名の参加があった。高齢者疑似体験や認知症の理解についても内容に取り込み講習だったので、今年も開催を予定している オリーブ講習会は地域の方の参加もある	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している 家族会（親睦会）開催を希望する声があり、小規模では義務ではない家族会の開催を予定している 地域からは防災関係の意見が多く、オリーブの消防訓練には計画段階からかかわっていただいている	運営推進会議を通して、家族から職員の顔と名前が分らない人がいるので名札を着けて欲しいという意見があり、直ちに実行しています。この他、家族が集う機会を作ることとし、家族30名の参加を得て「オリーブ親睦会」の開催が実現しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	オリーブで支援に悩む事例については、区のケースワーカーや地域包括支援センターに相談しており、市のリハビリセンターの専門的な意見を聞くことが出来た事例がある 周りの意見を聞く必要がある場合は関わってもらうように働きかけている	瀬谷区地域密着型事業所連絡会（30事業所）に参加し連携・情報交換を図っています。年に2回の「せやまるカフェ」には瀬谷市も参加して高齢者支援、認知症に関する研修・情報交換を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内勉強会・研修で学ぶ機会がある 玄関の施錠は日中はしていない 行政で行われる研修会にも積極的に参加している	年に2回、職員の個人面談を実施しており、その際「ケアのあり方チェックシート」で自己評価を行い、身体拘束についても、点検するようにしています。社内にも手引きがあり、研修機会を利用して身体拘束禁止について確認するようになっていきます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけなどスタッフ同士で気になることを話し合っている 社内の研修以外でも機会があれば高齢者虐待の研修に参加している ケアチェックシートを活用している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター主催の研修に参加した 認知症の利用者様の家族に制度利用について伝えた事例がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている 他にかかわっている事業所がある場合はサービス担当者会議を活用している サービス解約時は料金の請求に関して等伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催予定がある 連絡帳を活用している メールでの連絡も受け付けており、電話連絡より些細なことも連絡できると評価されている 送迎時に家族がいる場合オリーブでの様子の報告をしている	本人が一人では「泊まりたい」と言いにくいとの家族の意見があり、他の家族にも「泊まり」の声掛けを行い、一緒に泊まりが実現し「泊まるのが一人ではなくてよかった」との声も聞かれ意見を反映しています。行事の内容についても、家族の提案や意見を聞いて実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上業務とケースのカンファレンスを行なっている 毎朝20分程度申し送り以外のことも話し合っている 社内の各会議で代表者に意見を伝えることができる 職員からの意見は管理者を通して運営者へ伝えている	個人面談を年に2回実施しています。また、日常的に職員は思いや意見をいつでも自由に言える雰囲気があり、仕事の中でも意見交換がしやすい環境にあります。職員から「みんなで意見を出し合い、一つの施設を作っていくのがいい」という声も聞かれます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回社員旅行があり、全員が参加できるように日程を分けて海外・1泊、日帰りから希望できる 代表者はすべてに参加して職員と交流している 代表者も参加する社内のスポーツ親睦の機会がある 会社主催で納涼祭を実施している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年管理者向けに宿泊研修を実施している オリーブ自主勉強会を開催し管理者も一緒に学ぶ機会をつくっている 法人で初任者研修を開催、優先的に受講することが出来る 社内に勉強会委員、教育委員会があり社内全体で学ぶ機会もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模多機能型居宅介護事業所全国大会（北海道）に行き勉強する機会があった 瀬谷区ケアマネットに登録し、情報交換・勉強会など行いネットワーク作りをしている 小規模多機能勉強会（横浜市高齢福祉局主催）に出席している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族に時間をかけて希望を聴いている 送迎時などお会いした際はオリーブでの様子を積極的にお伝えしている 様子は連絡帳やメールにてご家族に報告している サービス開始時は安否確認の訪問を積極的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的にオリーブで出来ることを伝えている サービス内容についてもこちらから提案することにより不安なことや要望が出やすいように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望のサービスを確認後、小規模多機能ではなくてもよいと思われる場合は他サービスの情報提供を行っている 区役所・地域包括支援センターにも相談しサービスの決定を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の近くに住んでいる方が多いので、一緒に地域活動に参加したり、生活の場面で能力を生かせるように対応している オリーブ講習会では消費生活の注意点等職員と一緒に学べる機会をつくっている 行事の計画は希望を聞いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に会ったときは些細なことも報告している 連絡帳はサービス利用時毎回記入し、ご家族からのご意見も記入できる メールでの連絡を希望しているご家族にはメールで連絡をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診先、床屋、歯科等通いなれたところへ行っている 介助なしでひとりでオリーブから歯医者に外出している方もいる 自宅ではなくオリーブに面会に来て、ゆっくり過されている家族もいる	利用者はこの地域で暮らしている人が多く、これまで通い慣れた場所や公園、レストランなどに一緒に行くこともあります。また、法人レストランで開催したディナーショーではピアノ演奏を堪能し、くじ引き大会もあり皆で一緒に盛り上がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者様が少ないので、近くの席で過せるように配慮している 散歩や外出時は歩くスピードを考慮し、何回かに分けて支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられてオリーブのサービスが終了した方の奥様とのかかわりが5年続いており、その方に介護が必要になりオリーブの利用者になったケースがある 同法人のグループホームに入居された方がオリーブに来る機会が日常的にある		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	施設には入所せず、自宅で生活を続けたいという方のひとり暮らしの自宅に民生委員さんが訪問することが出来るよう、連携したケースがある	当初は、離れて住む家族の思いとは逆に通所利用が進まない事もありましたが、利用者本人の思いを共に考えつつ「病気を治すためにオリーブに行きませんか」とすすめる事で、その後サービスの利用に繋がるなど、本人の意向に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	オリーブ登録前の事業所や地域包括支援センターとの連携に努めている 契約前に他事業所のサービスを受けていた場合は見学をさせてもらうことがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のかかわりでの気づきを活かし、いつも出来ている事が出来ない時などは訪問サービスを追加している 雪が積もった時に雪かきの訪問を急ぎよ行ったケースがある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはサービス担当者会議を開催し、今までの評価と共に新たな課題点等も話し合っている オリーブで開催しているケースカンファレンスでは日々の気づきやご本人やご家族からの声を共有し、実際の支援に活かしている	サービス担当者会議は各職員が記録したケース記録を参考にして、家族と本人、職員、管理者が参加して進めています。モニタリングは日常の気づきの他、月に一度実施しています。	ケース記録で、利用者の生の声やコミュニケーションで交わした言葉とその時の表情観察を加えることで、さらなる詳細な思いの引き出しになって行くことも期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には訪問やオリーブでの様子の他、家族からの伝達事項や要望なども記入、誰が見ても同じ情報を共有できるようにしている ケース記録以外に職員間の連絡ノートや申し送りノートがある これらを計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり暮らしで出来ないことが多くなつた方の支援で訪問回数を必要に応じて増やしたり、その都度サービス調整を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を知るため、瀬谷区まちづくり区民の会が主催する、区民の集いに参加している 運営推進会議では地域の課題について話し合うことがある 事業所として地域アセスメントを行なうことで、支援に活かすことができると考えている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にケアプランを渡し連携に努めている かかりつけ医がおらず、受診を希望されオリーブ施設協力医のところに受診を継続しているケースがある 心配事がある時はかかりつけ医に情報を伝えて、対応方法の指示を仰ぐことがある	かかりつけ医と連携し、ケアプランを渡して利用者の希望や思いを伝え、床ずれなどの状況に配慮した医療を受けられるように支援しています。職員は内科医等の往診に立ち会い、医師の指示を朝礼等で全職員に周知し適切な支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携ノートがあり些細なことでも報告している 24時間看護師に連絡が出来る 訪問看護師が入っている場合は活動時間に訪問させてもらい看護師の意見を聞いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は病院の医療連携室の相談員に面会し情報の共有に努めている 入院中も家族との連絡をとって様子を確認している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して一度入院しても、家族と本人が希望して自宅に戻ったケースがある リフト車での受診支援や、医師の指示通りの食事提供等、オリーブで出来る事を提案、訪問看護師や医師等との連携を行なっている	医療依存度の高い利用者を受け入れています。利用者の状況に応じ、特に重度化に際しては協力医と訪問看護師、及び家族と連携し介護方針を共有し支援しています。看取り介護の実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員全員が普通救命講習受講済みである 年に2回の消防訓練前に応急救護の勉強会を開催し、消防訓練時は応急救護の訓練も行っている 消防署職員がオリーブに来て応急救護、負傷者の搬送法、三角巾を使用した止血法の指導を行なっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署主催のDIGの勉強会に参加、ハザードについて理解した 消防訓練は年に2回開催し、地域住民の協力がある 近隣店舗やサービス付高齢者住宅と合同で訓練を行っている オリーブ火災発生時緊急連絡網には自治会長さんも入っている	年に2回、訓練の計画段階から地域住民が参加し消防訓練を実施しています。訓練は火災発生時の現場確認から避難誘導など毎回目標を設定し実施しています。火災発生時の緊急通報で自治会長が地域住民の支援を呼び掛ける仕組みが整っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけが不適切な場合は職員間で注意し合えるようにカンファレンスの際に伝えている 社内の勉強会でも言葉かけについて話し合い職員間に周知させている 言葉かけの注意点をまとめた社内基準があり、事業所内でも話し合っている	送迎時間や入浴時間、食事の内容等、職員は利用者の思いや日々の生活のペースを尊重し、臨機応変に対応を行っています。また、言葉かけについて職員同士が相互にチェックし、利用者の自尊心を損なうことがないように注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オリーブにいる時に限らず、どのように生活したいか等、利用者様との話しの中から汲み上げるようカンファレンス等で話し合っている お迎え・お送りの時間、入浴時間、食事の内容等希望に添うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴と食事を摂ったら帰りたい、タバコを吸いたいから早く帰りたいというように、どのように1日を過ごしたいかは、おひとりごとのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	オリーブ近くの美容院や床屋に行き、通いサービス中にきれいになる機会がある 訪問時に着替えを支援するケースでは、一緒に着替えを準備している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年梅干し作りを行なっている 頻繁に届くとれたて野菜を食べたり、準備・片付けを出来る方は一緒に作業していただいている 食器洗いなど声をかけなくても利用者様が手伝いに来て自然と一緒に出来ている おやつ作りは頻繁に行なっている	ふきのとうや刺身等の食材が食卓を飾り、利用者は季節の味を楽しんでいます。また、お好み焼きなどレクリエーションとしてのおやつ作りを楽しんでいます。職員は、利用者の食事量や水分補給を毎日記録し、体調の変化の把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	在宅高齢者で問題と思われるたんぱく質不足（低栄養）にならないよう配慮している 果物・野菜の不足にも注意している 食事摂取量は家族に報告している 通いサービスでの水分量は800ml以上目標としている 少な目の食事希望の方はさりげなく対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを忘れてきた方用に使い捨ての歯ブラシセットの用意がある（無料） 歯ブラシセットはオリーブでお預かりして定期的に消毒をおこなっている 自宅での夕食後、ひとりで口腔ケアが出来ない方に対し、口腔ケア目的に訪問しているケースがある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握している 排泄間隔の長い方にも2時間ごとに声をかけている 食事前、入浴前、お帰り前にはトイレの声かけを行っている	利用者ごとの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けを行うことで失禁がなくなった事例があります。トイレに介助バーを取り付け排泄の自立化を促しています。個別支援計画に排泄介助のニーズを明記し、排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔が把握できない方は、自宅での排便があった際は連絡帳に記入をいただいているケースがある 連泊時は排泄表にて把握している 排便があった際は連絡帳にて家族に報告している 食物繊維が不足しないよう配慮した食事内容にしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は希望に添っている 入浴回数はご本人・ご家族の希望を聞いている 機械浴室があり安全に入浴することが出来るが、機械浴を希望されない方は、機械浴に頼らず、職員2名介助でも一般浴室で入浴いただいている	週に2～3回の入浴が基本ですが、利用者や家族の希望を取り入れて時間や回数の支援をしています。職員が1対1で対応し、転倒事故などに注意を払い見守っています。一般浴と機械浴の設備があり、利用者の要望に応じて使い分けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	宿泊は個室で、冷暖房が完備している電気は消さずに寝たい方の希望を聞いているケースがある 日中に休みたい方のために、1階フロアーにプライバシーを確保することが出来る静養室があり、気軽に休んでいただける環境がある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族対応での受診後も服薬の内容を確認している ケース記録内に処方内容がわかるものを入れている 居宅療養管理指導、往診が家に入っている方の身体状況の変化等を主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんによるウクレレ演奏会やカラオケ大会等変化のある行事を行なっている 行事の際は利用日以外でも参加できるように働きかけている 梅干し作りなどの手仕事の機会を提供し役割を持っていただけるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	みかん狩り遠足や、畑での野菜の収穫、外食の機会がある 法人でグラウンドを所有しており、芝生の上でゴロゴロすることも出来る ひとりでスポーツクラブに通っている方もいる	利用者の歩行の状況に応じ、3グループにわけて散歩に出かけています。小学校の運動会などの地域の行事にも積極的に参加したり、畑で野菜を収穫したり、買い物に行ったりと日常的に外気にふれる機会を多く持つようになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	オリーブ近所のパン屋に買い物に行きご自分で会計されている 受診の際もできるだけご自分で会計出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ひとり暮らしの方の電話のそばに、あんしんカード（家族、オリーブ、主治医の連絡先を書いたもの）を貼り必要時に電話・手紙等で連絡が出来るような支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアは南向きで、冬でも暖房を入れなくても心地よく過ごせる時間があるほど日当たりが良い 定時に換気を行なっている 共用の空間は余裕がある造りになっている 音楽はリラクゼーション系のゆったりとしたものをかけている 1階、2階共に畳の空間がある	リビングなどの共用部分は、ゆったりとしたつくりで、日当たりもよく快適な空間です。壁にはちぎり絵や書道など、利用者の作品が飾られ、利用者がピアノに合わせて歌ったり、塗り絵や体操をしたりして過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアで大勢で過ごしている時でも、静養室（畳とベット）でひとりでゆっくり過ごすことができる テーブルは3ヶ所あり、相性を考慮した席を心かけている 女性が集まって賑やかに過ごしている事が多くある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	目覚まし時計、マッサージ器、電気アンカ、ラジオなどを宿泊時に持参している方がいる 日中過ごす椅子用のクッションや膝掛けを持参している方がいる 本を持参している方もいる	小規模多機能の特性に配慮し、職員は利用者の意向を確認し居心地の良い泊まりの部屋づくりを心がけています。利用者は日常使っている枕や目覚まし時計、ラジオなどを持参しています。職員は利用者が安心して宿泊できるように見守っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレからの立ち上がりが困難な方が、安全に自立した排泄が出来るような手すりの取り付け工事を行なった キッチンには広く車椅子や杖を使用しても安全に作業が出来る調理はIHヒーターで安全に配慮している 男性用のトイレは自立されている方用もある		

(別紙4(2))

事業所名 小規模多機能 オリーブ

目標達成計画

作成日: 平成 26年 7月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケース記録の記載方法に、利用者与会話内容や思いの記述が少ない	ケース記録で、利用者の生の声やコミュニケーションで交わした言葉とその時の表情観察を加えることで、さらなる詳細な思いの引き出しとなり、日頃の支援に活かすことが出来る	カンファレンスの際に職員に説明し、毎月記録についての評価を行っていく	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月